科目名	情報リテラシー論	授業形態	講義	対象	全専攻１・２年	単位数	2	キャップ制対象外
担当教員	竹内　聖	実務経験	○	期間	前期	他専攻	／	―

履修条件

PC実習室利用の場合は授業に関して特に用意するものはないが、授業時間外の復習や課題制作があるため、Adobe製品が動作するノートPCを用意するか大学内で利用できる環境を用意すること。授業演習素材や制作物の持ち運びのためにUSBメモリーを準備すること。

個人のパソコンで授業外で制作する場合はAdobe Creative Cloud学生版（月額1980円1年間契約）を購入すること。詳細は初回の授業時に説明する。

授業の概要

演劇公演における制作実務の中でも専門技術を要する宣伝美術について、実際の制作実習を通じて学ぶ。また、スマートフォンやインターネットの普及により演劇の広報や宣伝活動も、従来のポスターやフライヤーに加えFacebookやTwitterなどのソーシャルメディア抜きでは考えられなくなってきた。そのような時代にどのようなプロモーションが効果的か？紙の媒体と比べてどのようなことに注意を払わなくてはいけないのか？インターネットによりメディアが身近になり便利になった反面、今までと違った危険も多くなってきている。そんな時代の新しい演劇の宣伝活動を学んでいく。

授業の到達目標

- 公演のフライヤーの制作の技術や、宣伝企画力が習得できる。
- 社会人として、大学生として身につけておくべき「メディア情報リテラシー」を身に付けることができる。
- インターネット、情報機器の正しい知識、使い方やソーシャルメディア時代のコミュニケーションと宣伝企画制作の基本を学ぶことができる。、
- メディアと宣伝美術を学び、これからの一般社会において幅広く役に立つ知識と技術を身につけることができる。

授業計画

1. 導入　演劇における宣伝美術とメディアリテラシーについて
2. フライヤーなどの制作に使うソフトウエアの説明とPhotoshopの基本操作
3. Photoshopを使った画像処理①画像の切り抜きと画像合成
4. Photoshopを使った画像処理②イメージ画像の制作と画像のレタッチ
5. Photoshopを使った画像処理③印刷用写真画像のレタッチと編集
6. Photoshopを使った画像処理④1.2.3の技法を使った作品作り
7. Illustratorの基本操作①基本操作と図形作成・ロゴマークの制作
8. Illustratorの基本操作②イラストの制作基本
9. Illustratorの基本操作③イラストの制作の応用
10. Illustratorを使ったレイアウト実習①地図の作成と写真の配置
11. Illustratorを使ったレイアウト実習②文字組の基本と文字装飾
12. 課題制作フライヤーの作成①ビジュアルイメージとレイアウトの構成
13. 課題制作フライヤーの作成②経過指導
14. 課題制作フライヤーの作成③仕上げ
15. Webサービスを使ったWebサイトの制作

授業時間外の学習

Photoshop、Illustrator習得のための復習と課題制作。

SNSなどの利用。制作ツールやWEBサービスを使ったサイト制作の自習。

公演チラシや特設サイトなどの情報収集を自分の時間を使って行う。

教科書・参考書等

特にないが、授業内外でPC、スマートフォンを使用する。

PCを持っていなくても受講は可能だが、必ず初回授業時に相談すること。これからの社会においてパソコンは必要なツールのため、持っていない人はこの機会に購入することを勧める。ソフトウエアはAdobeのCreative Cloudを購入してもらうが、詳細については初回授業時に説明する。すでに古いバージョンのソフトを購入済みの人は新規に購入する必要はない。

成績評価

1. 授業への取り組み（50点）　2. 授業態度積極性（20点）　3. プレゼンテーション（30点）

S　総合点90点以上
A　総合点80点以上
B　総合点60点以上
C　総合点50点以上
D　総合点49点以下

科目名	映画論	授業形態	講義	対象	全専攻1・2年	単位数	2	キャップ制対象外
担当教員	行定　勲	実務経験	○	期間	後期集中	他専攻	／	○

履修条件

特になし。

授業の概要

本講義では、映画はどうやって制作されていくのか題材をどこに求めるのか等について、演劇と映画の具体的な作品を参照にしながら、テーマごとに掘り下げていく。具体的な作品の解説を通じて講義を進めていくため、学術的な内容よりも実践的な内容が中心となるが、映画制作にとどまらず創作活動において重要となる要素について、丁寧に取り扱っていければと考えている。

講義を通じて、学生の皆さんと質疑応答だけでなくテーマごとにディスカッションを活発にできればと、思っている。

授業の到達目標

映画制作に関するいくつかの論点を通じて、映画制作にとどまらず、創作活動において基礎となる大事なポイントを理解することができる。

授業計画

以下、テーマについて、具体的な作品を参照しながら、解説、ディスカッションの流れで授業を進めていく。

1. 映画はどうやって制作されているのかという概論①
2. 映画はどうやって制作されているのかという概論②
3. 演出における自作論と発想①
4. 演出における自作論と発想②
5. 演劇作品の映画化についての考察
6. 映画における演劇的演出の意義
7. 評価されることの意義
8. 映画化企画のプレゼンテーション

授業時間外の学習

授業時に適宜指示する。

教科書・参考書等

なし。

成績評価

授業への取組みとレポート課題（予定）で総合的に評価する。

S　授業への取り組みと課題の成果がたいへん優れている。
A　授業への取り組みと課題の成果が優れている。
B　授業への取り組みもしくは課題の成果が優れている。
C　授業への取り組みもしくは課題の成果が不十分。
D　授業への取り組みも課題の成果も不十分。

科目名	音楽基礎演習―バロック・ダンス	授業形態	演習（技術）	対象	音楽専攻1年	単位数	1	キャップ制対象外
担当教員	浜中　康子	実務経験	○	期間	前期	他専攻	／	―

履修条件
音1必修。

授業の概要
17世紀初めの頃から18世紀半ばにかけてフランス宮廷を中心に栄え、ヨーロッパ中に広まっていったダンスをバロック・ダンスと称する。メヌエットやガヴォット等がその代表的なものであり、日頃演奏や鑑賞を通して関わっているこれらのバロック舞曲を、実際のダンス・ステップを通して体験する。バロック・ダンスのステップや踊り方は、現存する舞踏譜やダンス教本によって300年以上経た今、復元することができる。これらの読み方についても触れ、音楽とダンスの歴史的及び運動的関連性を明らかにする。

ダンスの実習と共に、器楽で舞曲を演奏し、実際にダンスの伴奏を試みたい。

授業の到達目標
様々な舞曲の中でブレ、メヌエット、カヴォットを発表できるように仕上げることができる。

授業計画
1. バロックダンスについての概説／テクニックの基礎(ポジション他)
2. 歴史的背景／テクニックの基礎
3. ブレの基本的ステップ（音楽と動きのアクセントの関係）
4. ブレとメヌエットの基本ステップ①舞踏譜の読み方
5. ブレとメヌエットの基本ステップ②舞踏譜の読み方
6. ブレ①舞踏譜に記述された振付を踊る
7. ブレ②舞踏譜に記述された振付を踊る
8. 発表／ブレのダンスとともに舞踏上の音楽を演奏する
9. メヌエット①基本ステップの練習～舞踏の振付を踊る
10. メヌエット②基本ステップの練習～舞踏の振付を踊る
11. メヌエット③宮廷舞踏のマナーを踏まえて踊る（お辞儀／エスコートの方法）
12. メヌエットのまとめ①ガヴォットのステップと練習
13. メヌエットのまとめ②ガヴォットのステップを舞踏譜の振付で踊る
14. メヌエット、ガヴォットの仕上げ／サラバンドやジグについて
15. メヌエット、ガヴォットの発表／サラバンドやジグについて

順序や内容は、履修者の能力や進度に合わせて変更する可能性があります。

授業時間外の学習
- 授業中は知的な理解に留まることも身体表現としてスムーズに行えるようにステップ名と動きを結びつけながらリピート練習すること。
- 様々な作曲家・時代の舞曲を数多く演奏・鑑賞すること。

教科書・参考書等
書籍：浜中康子著「栄華のバロック・ダンス―舞踏譜に舞曲のルーツを求めて」音楽之友社
DVD：浜中康子監修「フランス宮廷の華『バロック・ダンスへの招待』Ⅰ・Ⅱ」音楽之友社
服装：膝の曲げ伸ばしが行いやすいパンツまたはスカート（タイトスカート不可）、ダンスシューズ使用

成績評価
成績評価については、授業への取り組み・レポート、学期末実技発表の結果を総合的に判断して行う。

S　総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者）。
A　総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者）。
B　総合点が60点以上の者（授業内容の理解、課題への取り組みが良好だった者）。
C　総合点が50点以上の者（授業内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者）。
D　総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、学期末試験未提出者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者）。

科目名	演奏会制作法	授業形態	演習（理論）	対象	音楽専攻１年	単位数	1	キャップ制対象外
担当教員	伊藤　直樹	実務経験	○	期間	後期	他専攻	／	―

履修条件
演奏会等の企画・制作に興味があり、自らの音楽活動に役立てたい者。

授業の概要
文化ホールなどで行う演奏会は、企画から実施まで細かな行程のもとに実施されている。本授業では、演奏会実施の目的や意図を明確にしたうえで、企画から予算作成、公演実施に至るまでの基礎知識を学び、各々が企画書を作成し、発表・考察を行う。

授業の到達目標
演奏会を企画・実施するまでの内容や行程を理解し、演奏会の企画制作ができる。

授業計画
1. 導入（授業内容と目的、基礎アンケート）
2. 文化ホールの役割・アウトリーチについて（事例紹介）
3. 企画演習　企画書（１）の作成
4. 企画演習　企画書（１）の作成・発表・考察①
5. 企画演習　企画書（１）の発表・考察②
6. 演奏会実施までのスケジュールと内容について
7. 演奏会実施に係る予算と内容について
8. 著作権法、楽曲使用料等について
9. 企画演習　企画書（２）の作成
10. 企画演習　企画書（２）の作成・発表・考察①
11. 企画演習　企画書（２）の発表・考察②
12. 劇場の仕組み、劇場用語等について
13. 企画演習　企画書（３）の作成
14. 企画演習　企画書（３）の作成・発表・考察
15. 授業総括

授業時間外の学習
劇場公演の鑑賞、近隣文化ホールの見学。

教科書・参考書等
資料プリントを配布。

成績評価
授業の取り組み姿勢/企画書等の提出物で判断する。

S　基本的な内容を十分把握できて、授業への取り組みが積極的である。
A　基本的な内容を十分理解できて、授業への取り組みが積極的である。
B　基本的な内容をほぼ理解できて、授業への取り組みが積極的である。
C　基本的な内容をある程度理解できているが、授業への取り組みが積極的でない。
D　基本的な内容を理解できておらず、授業への取り組みが積極的でない。

科目名	コード論Ⅰ	授業形態	講義	対象	音楽専攻２年	単位数	2	キャップ制対象外
担当教員	小林　真人	実務経験	○	期間	前期	他専攻	◎	―

履修条件
特に無し。

授業の概要
コードとは何かを知り、それぞれのコードを覚える。メロディに対して、シンプルなコード付けを出来るようにする。
ハーモニーについて考え、理解を深めることで、各々が演奏する際のアイデアを増やし、音楽表現を豊かにするための一助にする。
コードを元に柔軟に演奏する方法を体験する。
コードの説明、実践はピアノを使用して進め、読み方はドイツ音名ではなく英語読みとする。

授業の到達目標
3和音と4和音のコードを覚える。メロディに対してコード付けできる。
コードの機能と連結を理解して、それを元にしたシンプルなコードの発展のさせ方を知る。
それらをピアノなどで演奏、表現できる。

授業計画
1. 導入
2. コード論　入門編①コードとは？
3. コード論　入門編②３和音と４和音
4. コード論　入門編③転回形
5. コード論　基礎編①ダイアトニックコードと機能
6. コード論　基礎編②同じ機能内での代理
7. コード付けの実践①単純なコード付け
8. コード付けの実践②ボイシング
9. コード論　基礎編③ドミナントモーションとⅡm7-Ⅴ7
10. コード論　基礎編④セカンダリードミナントセブン
11. コード論　基礎編⑤Ⅴ7とⅡb7の関係
12. コード論　基礎編⑥代理コードとリハモナイズ
13. コード付けの実践③和声音と非和声音
14. コード付けの実践④単純なコード進行の応用、発展
15. まとめ

授業時間外の学習
授業でやった事を復習しておく。
コードに慣れる。

教科書・参考書等
特になし。随時プリントを渡す。

成績評価
(1) 授業態度50% (2) 課題発表への取り組む姿勢、レポート等での総合評価50%
S　総合点90点以上
A　総合点80点以上
B　総合点60点以上
C　総合点50点以上
D　総合点49点以下

科目名	楽器法	授業形態	講義	対象	音楽専攻２年	単位数	2	キャップ制対象外
担当教員	大澤　健一	実務経験	○	期間	前期集中	他専攻	◎	○

履修条件
特になし。

授業の概要
人が音を奏でる手段としての楽器は太古から今日にいたるまで実に多くの楽器が作られてきた。伝達、信号として登場した楽器は次第に歌や踊りの伴奏として使われ、やがて音楽を伝える主役楽器となった。授業では、現在の管弦楽などで使われる楽器について講義するが、その楽器の原点である民族楽器についてもふれる。
木管、金管、打楽器、弦楽器に分類して、その誕生と現在の役割、使用楽曲、メンテナンスなどについて講義する。
これら楽器の正確な知識は、あらゆる音楽に携わるすべての行動に必要不可欠であろう。

授業の到達目標
- 楽器というものが、どのように分類され、どのような歴史をたどって、現在使われているかを理解する。また作編曲、器楽指導に必要な楽器の基礎知識を学習することができる。
- 気鳴楽器、弦鳴楽器、膜鳴楽器、体鳴楽器、機械電気楽器の5つの楽器体系を理解し、全ての楽器がこれらに分類されることを理解できる。

授業計画
[進行予定]
木管楽器…フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフォン
金管楽器…トランペット、ホルン、トロンボーン、ユーフォニアム、テューバ
弦楽器……ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス
打楽器
体鳴楽器…シンバル、トライアングル、ドラ、鍵盤楽器他
膜鳴楽器…太鼓、ティンパニー、タンバリン、ボンゴ他
[ポイント]
1. 構造……　発音原理、楽器の材質
2. 音域……　調性、最低音、最高音、適切音域
3. 特色……　得意な奏法、不得意な奏法
4. 同属楽器……　調性の異なる同属楽器
5. 歴史……　楽器の誕生について
6. 楽曲……　この楽器を説明するのに適した楽曲
7. メンテナンス…　楽器の取り扱い上での注意点

授業時間外の学習
室内楽、管弦楽のコンサートを鑑賞し、使用される各楽器の特徴を調べておくこと。

教科書・参考書等
参考プリントを授業で配布する。

成績評価
成績評価については、授業への取り組み・受講態度100%で評価する。
S　総合点が90点以上の者
A　総合点が80点以上の者
B　総合点が60点以上の者
C　総合点が50点以上の者
D　総合点が49点以下の者

科目名	音楽マネジメント	授業形態	講義	対象	音楽専攻２年	単位数	2	キャップ制対象外
担当教員	児玉　真	実務経験	○	期間	前期	他専攻	／	―

履修条件

音楽の社会的な役割について、コンサートやアウトリーチの作り方を考えていきたい人。

授業の概要

音楽マネジメントは、芸術音楽の制作のノウハウや能力を学ぶだけでなく、音楽が自らの生きる力を高めるため、また、それによって生まれる社会の健全性にとって必要なものである、と言う認識がある。

この授業では、基本的にはマネジメントの様々なシーンで使える考え方やスキルを学んでいくが、その背景にある音楽の社会的役割が通奏低音の用の流れているように考えていきたい。

授業の到達目標

- 音楽の企画作りやプログラム作りの基礎的な能力を身につけることができる。
- 言葉にしにくい音楽・芸術を扱う上で必要な言語化の力を身につけることができる。
- アウトリーチやワークショップなどの手法を理解することができる。

授業計画

1. オリエンテーションと自己紹介、音楽マネジメントの守備範囲、文化の役割
2. 音楽マネジメントとは何か
3. コンサートビジネスの成り立ち
4. 音を聴く、とはどのような体験か
5. 音楽企画の社会性（単に商売としてだけではない存在としての側面）
6. 社会性をつくるための方法（アウトリーチやワークショップなど）
7. アウトリーチを見る
8. アウトリーチで何ができるか、を考える
9. 企画の作り方①（シーズからの考え方）
10. 企画の作り方②（ニーズから考える）
11. 企画の作り方③（企画を提案する）
12. 才能のある音楽家を売り出すには？①（ＹＣＡ等の事例）
13. 才能のある音楽家を売り出すには？②後半
14. 広報と宣伝について
15. まとめ

授業時間外の学習

コンサートに行ったときには制作者、運営者の立場で観察するようにして欲しい。

マスコミやネットなどで話題になる音楽や音楽事業、文化会館の動向などに関するニュースに注意を払い、可能であれば短くても良いから自分の意見をメモしておくとよい。

教科書・参考書等

資料は授業時に必要に応じて紹介する。

成績評価

筆記試験は行わないが、小論文課題を提出してもらう。

評価は小論文（50点）日常のレポートや発言など（50点）として採点する。

S　総合点90点以上の者
A　総合点80点以上の者
B　総合点60点以上の者
C　総合点50点以上の者
D　総合点49点以下の者

科目名	演奏解釈（2）声楽曲	授業形態	講義	対象	音楽専攻２年	単位数	2	キャップ制対象外
担当教員	相田　麻純	実務経験	○	期間	前期	他専攻	◎	―

履修条件

声楽専修必修。他専修も積極的に履修してほしい。

授業の概要

声楽が他の演奏分野と決定的に違うのは、音楽に言葉が付属している点にある。この授業では歌詞の理解と、その歌詞に音楽をつけた作曲家の意図を探っていく。歌唱する上で声を鍛錬することは重要だが、音楽表現を追究することも同様にとても大切なことである。ただ歌うだけの演奏ではなく、きちんと曲を理解することで、演奏する上での表現力を引き出すプロセスを一緒に学んでいく。前半は全4期に分類されている日本歌曲の作曲家の作品を取り上げ、後半はオペラの代表的作品であるモーツァルト作曲の《フィガロの結婚》を登場人物に分けて解釈していく。

授業の到達目標

楽譜と歌詞の両面から理解を深めることで、曲に込められた想いを読み取り、演奏する上での土台を作れるようになることを目指す。

授業計画

1. 導入。日本歌曲の変遷について、担当曲決め
2. 日本歌曲：第1期の代表的な作曲家と作品①瀧廉太郎
3. 日本歌曲：第1期の代表的な作曲家と作品②第1期のその他の作曲家
4. 日本歌曲：第2期の代表的な作曲家と作品①山田耕筰
5. 日本歌曲：第2期の代表的な作曲家と作品②第2期のその他の作曲家
6. 日本歌曲：第3期の代表的な作曲家と作品①中田喜直
7. 日本歌曲：第3期の代表的な作曲家と作品②第3期のその他の作曲家
8. 日本歌曲：第4期の代表的な作曲家と作品
9. オペラ：モーツァルト作曲《フィガロの結婚》における原作と台本
10. オペラ：フィガロの人物像と音楽
11. オペラ：スザンナの人物像と音楽
12. オペラ：伯爵の人物像と音楽
13. オペラ：伯爵夫人の人物像と音楽
14. オペラ：ケルビーノの人物像と音楽
15. オペラ：その他の役柄の人物像と音楽、まとめ

授業時間外の学習

日本歌曲においては、一人一曲を担当し、作曲家と作詞家の関係性や歌詞の意味などを調べておくこと。オペラにおいては《フィガロの結婚》のあらすじや登場人物について予習しておくこと。

教科書・参考書等

授業時に毎回楽譜とプリントを配布する。

成績評価

成績評価については、受講態度50％、課題に対する成果30％、レポート20％の結果を総合的に判断して行う。

S　総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者）。
A　総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者）。
B　総合点が60点以上の者（授業内容の理解、課題への取り組みが良好だった者）。
C　総合点が50点以上の者（授業内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者）。
D　総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、課題未提出者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者）。

科目名	演奏解釈（3）室内楽曲	授業形態	講義	対象	音楽専攻２年	単位数	2	キャップ制対象外
担当教員	寺岡　有希子	実務経験	○	期間	前期	他専攻	／	―

履修条件

弦楽器専修必修。他専修の積極的な履修を望む。

授業の概要

この授業は他の専修学生にも広く開放している。古典派の弦楽による室内楽作品を中心とするが、履修者の状況により、声楽、ピアノ、管楽器等も含まれる作品も取り上げ授業を進めていく。

授業形態としては学生の演奏を基本とし、作曲家とその作品に対してより知識を深め、「演奏」という実践にどのようにしたら結び付いていくか考えていく。学生全員参加の活発な意見交換の場になるよう、望んでいる。

授業の到達目標

スコアから作曲家の意図するものをはじめ、様々なことを読み取ることができる。またそれらを表現につなげていくことができる。

授業計画

ハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンの弦楽による室内楽作品を基礎課題とするが、履修者の状況を考慮しつつ様々な形態(例えば、声楽曲、フルート四重奏曲やピアノ五重奏曲等）の室内楽作品を取り上げていく。

1. 導入及び曲目の検討
2. 曲目とメンバーを決定
3. 各グループによる研究発表と演奏①バッハ
4. 各グループによる研究発表と演奏②ハイドン
5. 各グループによる研究発表と演奏③モーツァルト二重奏
6. 各グループによる研究発表と演奏④モーツァルト三重奏
7. 各グループによる研究発表と演奏⑤モーツァルト四重奏
8. 各グループによる研究発表と演奏⑥ベートーヴェン三重奏
9. 各グループによる研究発表と演奏⑦ベートーヴェン四重奏
10. 各グループによる研究発表と演奏⑧シューベルト
11. 各グループによる研究発表と演奏⑨メンデルスゾーン
12. 各グループによる研究発表と演奏⑩サン=サーンス
13. 各グループによる研究発表と演奏⑪ドヴォルザーク
14. 各グループによる研究発表と演奏⑫バルトーク
15. 全体合奏

授業時間外の学習

授業で演奏するメンバーは事前にリハーサルをしておくこと。またその曲の作曲者についてや作曲された背景、各自の楽器の詳細についても調べておくこと。

教科書・参考書等

課題となる曲のスコアをプリントして配布するので、必ず授業に持参すること。

成績評価

成績評価については、授業への取り組み・学期末課題の結果を総合的に判断して行う。

S　総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。

A　総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者)。

B　総合点が60点以上の者（授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。

C　総合点が50点以上の者（授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。

D　総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、学期末課題未提出者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名	身体トレーニングａｂｃｄ	授業形態	実技(GL)	対象	演劇専攻1年	単位数	1	キャップ制対象外
担当教員	山本　光二郎	実務経験	○	期間	前期	他専攻	／	―

履修条件

必修。カラダを動かすことをいとわない者。

授業の概要

カラダで表現することに気づき、可能性を確かめる授業である。テクニックの習得もさることながら、受講者個人のカラダに対する許容範囲を広げることを目的とする。

- カラダの柔軟性、カラダの持っているリズムを確認する。
- ダンスカンパニーコンドルズの持つ不思議な世界を紹介する、そこから舞台人として自身の見せ方、見られ方を学ぶ。
- 楽器を使える人、声を使える人はコンテンポラリーダンスを自身のパフォーマンスと融合することを学ぶ。

授業の到達目標

カラダを動かすことによって気付く自身の可能性を発見、認識、利用、表現することができる。

授業計画

1. 授業の導入。
2. ストレッチする。カラダで遊んでみる。踊るを遊ぶ。①基本
3. ストレッチする。カラダで遊んでみる。踊るを遊ぶ。②基本
4. ストレッチする。カラダで遊んでみる。踊るを遊ぶ。③基本
5. ストレッチする。カラダで遊んでみる。踊るを遊ぶ。④応用
6. ストレッチする。カラダで遊んでみる。踊るを遊ぶ。⑤応用
7. 振付けを覚えるトレーニング、音楽と共に動きのフレーズを学習する。雑誌、絵本などメディアを使って踊ることを学ぶ①基本
8. 振付けを覚えるトレーニング、音楽と共に動きのフレーズを学習する。雑誌、絵本などメディアを使って踊ることを学ぶ②基本
9. 振付けを覚えるトレーニング、音楽と共に動きのフレーズを学習する。雑誌、絵本などメディアを使って踊ることを学ぶ③応用
10. 振付けを覚えるトレーニング、音楽と共に動きのフレーズを学習する。雑誌、絵本などメディアを使って踊ることを学ぶ④応用
11. コンドルズのダンスを踊ってみる。演出を含めた小作品をつくる。①稽古
12. コンドルズのダンスを踊ってみる。演出を含めた小作品をつくる。②稽古
13. コンドルズのダンスを踊ってみる。演出を含めた小作品をつくる。③稽古
14. コンドルズのダンスを踊ってみる。演出を含めた小作品をつくる。④仕上げ
15. コンドルズのダンスを踊ってみる。演出を含めた小作品をつくる。⑤発表

授業時間外の学習

授業に参加するには健康であることが大前提であるので、日常的に怪我や病気に注意し、健やかな状態を維持すること。

教科書・参考書等

動きやすい、床に転がってもよい服装。裸足もしくは靴下。

成績評価

授業への取り組み重視（90%）、レポート提出（10%）を100点に換算

S：90点以上
A：80点以上
B：60点以上
C：50点以上
D：50点未満

科目名	演劇特別演習Ⅱ①②③	授業形態	演習(演技)	対象	演劇専攻２年	単位数	1	キャップ制対象外
担当教員	鴻上　尚史	実務経験	○	期間	前期	他専攻	／	―

履修条件

「演劇特別演習Ⅰ」を履修し、単位を修得していること。やる気があれば、それでいい。逆にいえば、やる気がないのになんとなくは受けないでほしい。それは、お互いの不幸になる。

授業の概要

- スタニスラフスキー・システムをざっと解説
- 「声の５つの要素」
- 三つの集中の輪
- リアルな感情と意識した（ひねった）動きの共通部分としての演技の追求。

授業の到達目標

リアルにかつ楽しく演技ができる。

「嘘」と「嘘くさい」と「リアル」の演技の違いが分かるようになる。

授業計画

1. スタニスラフスキー・システムについて①マジック・イフ
2. スタニスラフスキー・システムについて②目的
3. スタニスラフスキー・システムについて③障害
4. スタニスラフスキー・システムについて④行動
5. スタニスラフスキー・システムについて⑤演技とは
6. 声の教養・身体の教養を上げるために①
7. 声の教養・身体の教養を上げるために②
8. 声の教養・身体の教養を上げるために③
9. 声の教養・身体の教養を上げるために④
10. さまざまな演技のトライアル①
11. さまざまな演技のトライアル②
12. さまざまな演技のトライアル③
13. さまざまな演技のトライアル④
14. さまざまな演技のトライアル⑤
15. さまざまな演技のトライアル⑥

授業時間外の学習

とにかく、いろんな芝居（特に20代や同世代の）を見てほしい。20代の俳優が何をしているか、仙川から出て、見ること。

教科書・参考書等

参考書としては、「あなたの魅力を演出するちょっとしたヒント」（講談社文庫）、「俳優入門」（講談社文庫）、「演技と演出のレッスン」（白水社）である。

が、あくまで参考書であるので、無理に買うことはない。授業でちゃんと行う。

成績評価

授業への取組み及び授業での参加態度・試験結果で評価する。

S　総合評価90点以上
A　総合評価80点以上
B　総合評価60点以上
C　総合評価50点以上
D　総合評価50点未満

科目名	狂言Ⅰ①②	授業形態	実技(GL)	対象	演劇専攻1年	単位数	1	キャップ制対象外
担当教員	善竹　富太郎	実務経験	○	期間	後期	他専攻	○	―

履修条件

特になし。音楽専攻日本音楽専修は必修。

授業の概要

- 腹式呼吸でしっかり声を出す訓練から始める。
- 狂言の謡を謡い、身体を動かす訓練の舞を舞う。
- 狂言「附子」または「呼声」を実習する。
- 三次元の空間に自分の体がどのようにあるべきか演劇の基本が感得できるだろう。

授業の到達目標

大きな声を出すことができる。
まっすぐ前を向いて（下、横を見ずに）摺り足で前に進み元の位置に正しく戻ることができる。
「左右」の完成。

授業計画

1. オリエンテーション（声の出し方）「盃」の謡①
2. 「盃」の謡②　お話「声楽と謡」のちがい
3. 「盃」の謡③　お話「すりについて」「盃」の舞①
4. 「泰山府君」謡①　「盃」謡④　「盃」の舞②
5. 「泰山府君」謡②　「盃」謡⑤　「盃」の舞③
6. 「土車」の謡①　「泰山府君」謡③　「盃」の舞④
7. 「土車」の謡②　「泰山府君」謡④　舞の試験⑤
8. 「土車」の謡③　「泰山府君」謡⑤　泰山府君の舞①
9. 「土車」の謡④　泰山府君の舞②
10. 「土車」の謡⑤　泰山府君の舞③
11. 土車の舞①　泰山府君の舞④
12. 土車の舞②　泰山府君の舞⑤
13. 土車の舞③
14. 土車の舞④
15. 「土車」試験

授業時間外の学習

授業内容をふまえ、自主練習を行うこと。

教科書・参考書等

「狂言」ハンドブック（三省堂）

成績評価

平常点（授業への取組み・受講態度）と実技点を総合的に判断する。

S　総合点90点以上
A　総合点80点以上
B　総合点60点以上
C　総合点50点以上
D　総合点49点以下

科目名	狂言Ⅱ①②	授業形態	実技(GL)	対象	演劇専攻2年	単位数	1	キャップ制対象外
担当教員	善竹　富太郎	実務経験	○	期間	前期	他専攻	○	―

履修条件

「狂言Ⅰ」を履修し、単位を修得していること。音楽専攻日本音楽専修は必修。

授業の概要

- 腹式呼吸でしっかり声を出す訓練から始める。
- 狂言の謡を謡い、身体を動かす訓練の舞を舞う。
- 狂言「附子」または「呼声」を実習する。
- 三次元の空間に自分の体がどのようにあるべきか演劇の基本が感得できるだろう。

授業の到達目標

大きな声を出すことができる。
まっすぐ前を向いて（下、横を見ずに）摺り足で前に進み元の位置に正しく戻ることができる。
「左右」の完成。

授業計画

1. オリエンテーション
   1年後期からの復習「盃」「泰山府君」「土車」の謡
2. 「雪山」の謡　「土車」の舞の復習
3. 「雪山」の謡　「土車」の舞の復習　「雪山」の舞①
4. 「十七八」の謡　「雪山」の謡の復習　「雪山」の舞②
5. 「十七八」の謡の復習　「雪山」の舞③
   「雪山」の謡の復習
6. 「宇治の晒」の謡①　「雪山」の舞試験
7. 「宇治の晒」の謡②　「十七八」の舞①
8. 狂言「呼声」の詞①　本読み①　「十七八」の舞②
9. 狂言「呼声」の詞②　「宇治の晒」の謡③
   「十七八」の舞③
10. 狂言「呼声」の詞③　「暁の明星」の謡①
    「十七八」の試験
11. 狂言「呼声」の立ち稽古①　「暁の明星」の謡②
12. 狂言「呼声」の立ち稽古②　「暁の明星」の舞①
13. 狂言「呼声」の立ち稽古③　「暁の明星」の舞②
14. 狂言「呼声」の立ち稽古④　「暁の明星」の舞③
15. 「暁の明星」試験

授業時間外の学習

授業内容をふまえ、自主練習を行うこと。

教科書・参考書等

「狂言」ハンドブック（三省堂）

成績評価

平常点（授業への取組み・受講態度）と実技点を総合的に判断する。

S　総合点90点以上
A　総合点80点以上
B　総合点60点以上
C　総合点50点以上
D　総合点49点以下

科目名	舞台照明実習②	授業形態	実習(Staff)	対象	演劇専攻１年	単位数	1	キャップ制対象外
担当教員	兼子　慎平	実務経験	○	期間	前期集中	他専攻	／	○

履修条件

実習が主になるので、稽古着・稽古履など動きやすい服装で受講すること。また（舞台）照明に興味がある事。舞台照明作業に一度でも触れている事が望ましい。

授業の概要

参加者全体で取り組む舞台照明の作業を通して、各々の協調性・自立性、またそのバランスのとり方を体で認識すること。そしてその認識を頭と体で昇華し、それぞれの段階で作業に『実践』してみる所までこの実習では求めることとする。作業の中で上記過程を繰り返すことにより、基本的かつ実践的な舞台照明の基礎を学ぶことを目標とする。照明と演者の関係を考察してみる機会も提供する。

授業の到達目標

基本的かつ実践的な舞台照明の基礎を身につけることができる。

授業計画

1. 照明の仕込み作業を学ぶ①（午前）
2. 演者と照明(スタッフワーク）の関わりについて(ディスカッションを含めた考察)
3. 照明の仕込み作業を学ぶ②（午後）
4. 特殊機材を扱う
5. 舞台照明（シーン）を作る
6. 質疑応答

授業時間外の学習

舞台照明に触れる機会があれば積極的に参加してほしい。また、『良い演技』あるいは『良いスタッフワーク』とは何か、機会があれば考察してみてほしい。

教科書・参考書等

教科書は特に無し。実習で使用する図面等は講義時に配布。また参考図書についても講義時にいくつか紹介する。

成績評価

S　講義・作業に積極的に関わり、協調性・自立性の両方が認められ、特にリーダーシップも発揮できる者
A　講義・作業に積極的に関わり、協調性・自立性の両方が認められた者
B　講義・作業に積極的に関わり、協調性・自立性どちらか一方でも認められた者
C　積極性にはやや欠けるが、講義内容を努めて真面目に理解しようと認められた者
D　積極性に欠け、講義内容も理解しようと認められなかった者

科目名	舞台音響実習①	授業形態	実習(Staff)	対象	演劇専攻１年	単位数	1	キャップ制対象外
担当教員	佐藤　こうじ	実務経験	○	期間	前期集中	他専攻	○	○

履修条件

音響部以外の学生を対象とする。

授業の概要

舞台における俳優が知っておくとよい音響の知識を学ぶ。音響的なことではなく、俳優視点の授業である。授業の最後に、実習を行う。

授業の到達目標

- 音響の仕事、機器の扱いを理解することにより、スタッフの意図を汲み、よりクオリティの高い作品づくりを目指すことができる。
- 「伝える」ことの難しさを理解できる。

授業計画

1. 搬入、仕込み、サウンドチェックの見学
2. ライブハウスPA、舞台音響、ミュージカル音響の違い
3. スピーカーの向きの検証（モニターの必要性）
4. カラオケボックスでキーンとなるのは何故か（ハウリングの検証）
5. 有線マイク、ワイヤレスマイク（ハンドマイク、ピンマイク）の取り扱い
6. 実際に音を出して音響の仕事を紹介、その効果
7. サンプラーの紹介（刀の音、殴る、蹴るなどの音を動きと合わせる音響効果）
8. 実習（チームごとにわかれ、テキストを上演する）
9. 撤去

授業時間外の学習

実習で使用するプリントを事前配布するので、目を通し理解しておくこと。

教科書・参考書等

プリントを配布する。筆記用具、舞台で動けるようなシャツ、ズボン着用のこと。小劇場で作業をするために必要な上履き、運動靴着用のこと。

成績評価

授業への取組み50%、実習への取り組みと態度50%を100点換算して評価する。

S　総合点が90点以上の者
A　総合点が80点以上の者
B　総合点が60点以上の者
C　総合点が50点以上の者
D　総合点が49点以下の者

科目名	舞台音響実習②	授業形態	実習(Staff)	対象	演劇専攻1年	単位数	1	キャップ制対象外
担当教員	宮崎　淳子	実務経験	○	期間	前期集中	他専攻	／	○

履修条件
音響部の学生を対象とする。

授業の概要
基本的な音響機材の使用方法、効果を知り、学内イベントや稽古でのセッティング、オペレートに役立てる。

授業の到達目標
- 音響機材の信号の流れを理解し、基本的な結線がスピーディーに行うことができる。
- 簡単なトラブルシューティングができる。

授業計画
1. 機材の用途、機能を知る。
2. ミキサー
3. エフェクター
4. 他、学生から前もって要望があれば応じる。
5. ケーブルの名称を再確認、統一する。
6. 信号の流れに沿った結線をする。
7. 音が正常に出ない時の原因究明の方法。
8. 仕込図（配線図）を読めるようにする。

授業時間外の学習
適宜指示する。

教科書・参考書等
授業時にプリントを配布。

成績評価
実技試験70%、筆記試験30%で100点に換算。
S　90点以上の者
A　80点以上の者
B　60点以上の者
C　50点以上の者
D　49点以下の者

科目名	舞台監督実習	授業形態	実習(Staff)	対象	演劇専攻1年	単位数	1	キャップ制対象外
担当教員	鈴木　健介	実務経験	○	期間	前期集中	他専攻	／	○

履修条件
原則として演劇専攻1年生は全員参加。

授業の概要
演劇を構成する要素を理解する。俳優が集まるだけでは上演にこぎつけるのは難しい。
色々なセクションのスタッフが集まりチームを立ち上げることによって公演の初日を迎えることができ、上演の成果を得ることができる。限られた条件（稽古時間や講演予算、人手不足等）の中で最良の舞台を作るにはその作品に関わる俳優と全スタッフのチームワークが何よりも必要である。
舞台監督はチームワークを要であるので、その仕事の範囲を理解する。また演出の仕事との違いや制作の仕事も理解する。

授業の到達目標
小劇場の舞台、客席を自分たちで設営できる能力を身につけることができる。
チームワークやタイムスケジュールの管理なども身につけることができる。

授業計画
1. 演劇を構成する要素
2. 舞台監督の仕事の範囲（演出家との仕事の違い）
   ① 舞台の総括責任者としての仕事
   ② 稽古場を作る→進行する
   ③ 舞台の設営
   ④ 毎日の上演の安全管理
3. 舞台（稽古場）の安全管理
   ① 作業中の安全管理
   ② 舞台進行上の安全管理
4. 簡単な道具制作作業
5. 小劇場の舞台の設営、客席を作る
6. 小劇場の舞台のバラシ、客席のバラシ

授業時間外の学習
各部署、先輩からの引き継ぎをしっかりする。

教科書・参考書等
必ず作業着を着用し、釘袋その他の作業道具を各自用意し、内履きシューズを使用。

成績評価
集中講義の授業への取り組み30%、レポート70%で100点に換算
S　総合点が90点以上
A　総合点が80点以上
B　総合点が60点以上
C　総合点が50点以上
D　総合点が49点以下

科目名	演出論	授業形態	講義	対象	演劇専攻1・2年	単位数	2	キャップ制対象外
担当教員	川村　毅	実務経験	○	期間	後期集中	他専攻	○	○

履修条件
特になし。

授業の概要
戯曲のリーディングのシミュレーションを行ない、演技と演出の知識と技術の幅を広げる。

授業の到達目標
リーディングという表現行為の理解とそれを応用しての将来の展望を獲得できる。
更に、それを通じて演出とはなにかを理解する事ができる。

授業計画
1. 川村毅「戯曲1」リーディングの実践
2. フィードバック①
3. 川村毅「戯曲2」リーディングの実践
4. フィードバック②
5. まとめ

授業時間外の学習
与えられた課題の予習及び復習をすること。

教科書・参考書等
特になし。

成績評価
授業態度、課題への取組み、課題の成果を元に総合的に評価する。
S：90点以上
A：80点以上
B：60点以上
C：50点以上
D：50点未満

科目名	舞台照明実習①	授業形態	実習(Staff)	対象	演劇専攻1年	単位数	1	キャップ制対象外
担当教員	石島　奈津子	実務経験	○	期間	前期集中	他専攻	○	○

履修条件
照明部以外の学生を対象とする

授業の概要
- 舞台照明の変遷
- 舞台照明の基本的な設備と配置
- 各種照明機材の説明
- 仕込みから撤去まで、照明の基本的な作業内容
- 照明デザインを表現者の関わり方
- 舞台で作業する上での安全確保

以上のことを、実際に小劇場の機構を使用して実習する

授業の到達目標
- 舞台の基本的な照明機構や機材を理解できる
- 舞台における照明の効果を理解して、それを表現手段の一つとして、利用することができる
- 舞台の設営作業の安全基準の現状を知ることによって、安全に対して意識を持ち怪我や事故などから身を守ることができる

授業計画
小劇場を実際の舞台に見立て、照明器材を通常よく使われている位置に簡易に設置して、実物を説明したり、スポットに実際に接してその効果を体感・理解してもらう。

授業時間外の学習
劇上演実習等の際、照明の存在を意識して、表現を深めるための効果を、照明を利用して得られる方法を検討してみる。

教科書・参考書等
なし

成績評価
1.授業態度
2.課題への取り組み
3.表現者としての真摯な姿勢
4.自らを研鑽する意欲
5.課題の成果
以上を元に総合的に評価する
S　1～5のうち全てを獲得した者
A　1～5のうち4つを獲得した者
B　1～5のうち3つを獲得した者
C　1～5のうち2つを獲得した者
D　1～5のうち1つしか獲得できなかった者

科目名	コード論Ⅱ	授業形態	講義	対象	専攻科音楽専攻１年	単位数	2
担当教員	小林　真人	実務経験	○	期間	前期	他専攻	／

履修条件

コード論Ⅰを履修していることが望ましい。

授業の概要

より多くのコードを覚え、ハーモニーについて考え、理解を深めることで、各々が演奏や作編曲をする際のアイデアを増やし、音楽表現を豊かにするための一助にする。

譜面通りに演奏することだけでなく、コードを元にその場に応じて、どのように演奏（作編曲も含め）したらよいか、自分自身で柔軟に創出出来るようにする。

コードの説明、実践はピアノを使用して進め、読み方はドイツ音名ではなく英語読みとする。

授業の到達目標

コードを覚え、その構成音を把握し、自由に転回できる。メロディに対してコード付けできる。

コードの機能と連結を理解して、それを元にコードの発展、応用を出来るようにする。

それらをピアノなどで演奏、表現できる。

授業計画

1. 導入
2. コード論　基礎編①コードの仕組み／３和音と４和音
3. コード論　基礎編②ダイアトニックコード／ TSDの機能
4. コード論　基礎編③ドミナントモーション／Ⅱm7-V7／SD7
5. コード論　基礎編④同じ機能内の代理／V7とⅡb7
6. コード論　基礎編⑤TとSの代理コード
7. コードパターンとコード付け①循環コードと逆循環コード
8. コードパターンとコード付け②カノン進行
9. コード論　応用編①代理コードの活用とリハモナイズ
10. コード論　応用編②テンション
11. コード論　応用編③コードとリズムの関係
12. コード論　応用編④コードと旋律（旋法）の関係
13. コードパターンとコード付け③ブルース
14. コードパターンとコード付け④作編曲への活用
15. まとめ

授業時間外の学習

授業でやった事を復習しておく。

コードに慣れる。

教科書・参考書等

特になし。随時プリントを渡す。

成績評価

（1）授業態度50%（2）課題発表への取り組む姿勢、レポート等での総合評価50%

S　総合点90点以上
A　総合点80点以上
B　総合点60点以上
C　総合点50点以上
D　総合点49点以下

科目名	管楽アンサンブル研究Ａ／Ｂ	授業形態	演習（技術）	対象	専攻科音楽専攻１・２年	単位数	4
担当教員	津川　美佐子	実務経験	○	期間	通年	他専攻	／

履修条件

管楽器専修（Tr、Tb、Tub、Sx 専修以外）必修。

授業の概要

木管五重奏を中心としたアンサンブル、又、ピアノ・弦楽器も入ったアンサンブルも学習していく。色々な楽器の音色、特性を学んでもらう。

そして、基本的な楽譜の読み方、フレージング、アーティキュレーションなど約束事を学び、アンサンブルの基礎を身につける。

授業の到達目標

他の楽器の特性を理解する。自分のパートはもとより、他のパートの音楽を受けとめ、対話していけるようにしていく。それぞれのアンサンブルのメンバーが話し合い、皆で音楽を作ることができる。

授業計画

[前期]

1. 授業内容説明と曲目の選択
   2回目以降、ハイドン、モーツァルトなどを中心に演奏実習。又、やさしい編曲のものを含む。
2. 演奏実習1ー①
3. 演奏実習1ー②
4. 演奏実習1ー③
5. 演奏実習1ー④
6. 演奏実習1ー⑤
   7回目以降、A.ライヒャ、F.ダンツィを中心とした曲の実習、ただし学生の状況によりハイドン、モーツァルトも含む。
7. 演奏実習2ー①
8. 演奏実習2ー②
9. 演奏実習2ー③
10. 演奏実習2ー④
11. 演奏実習2ー⑤
12. 演奏実習2ー⑥
13. 演奏実習2ー⑦
14. 演奏実習2ー⑧
15. 前期の曲の通し演奏及び、宿題の説明

[後期]

16. 曲目選択
    17回目以降、ドイツ、フランス近代、アメリカの作曲家の木管五重奏の実習
17. 演奏実習①
18. 演奏実習②
19. 演奏実習③
20. 演奏実習④
21. 演奏実習⑤
22. 演奏実習⑥
23. 演奏実習⑦
24. 演奏実習⑧
25. 演奏実習⑨
26. 演奏実習⑩
27. 演奏実習⑪
28. 演奏実習⑫
29. 演奏実習⑬
30. 実技試験（コンサート形式）

※学年の幅が広いので、それぞれの経験（アンサンブル）によって曲目を考え、又、学生の希望もとり入れていく。

授業時間外の学習

演奏実習なので、自分のパートはもとより、アンサンブルの仲間と事前に分奏しておくことが望ましい。

教科書・参考書等

特になし

成績評価

授業への取組む姿勢、授業中の演奏を重視。実習に対する姿勢50%、実技試験、課題50%

S　総合点が90点以上
A　総合点が80点以上
B　総合点が60点以上
C　総合点が50点以上
D　総合点が49点以下

科目名	室内楽研究B／Da	授業形態	演習（技術）	対象	専攻科音楽専攻1・2年	単位数	2
担当教員	阪本　奈津子	実務経験	○	期間	後期	他専攻	／

履修条件
特になし。

授業の概要
学生と室内楽要員によるアンサンブルを通して、基本的な合奏能力の向上、各作曲家のスタイルの理解を深める。

授業の到達目標
互いに尊重し、楽しみながら音楽作りをしていく中でアンサンブルの基本を習得することができる。

授業計画
1. 導入及び曲目の検討
2. 古典派の室内楽作品　モーツァルト①ピアノと弦楽器　二重奏
3. モーツァルト②三重奏以上の編成
4. モーツァルト③管楽器を含む室内楽作品、楽器の相違によるフレージングの注意点
5. ハイドンの室内楽作品① モーツァルトとの関連性ー弦楽四重奏曲
6. 音程について　純正律と平均律　ハイドン② ピアノを含む室内楽作品
7. ベートーヴェン① ベートーヴェンにおける強弱記号の捉え方
8. ベートーヴェン② 二重奏から五重奏
9. シューベルト① シューベルトの音色の選び方
10. シューベルト② ピアノとの室内楽
11. シューマン① 古典派、ロマン派によるヴィブラートの違い 弦楽器の室内楽作品
12. シューマン② ピアノを含む室内楽作品
13. ドヴォルザーク① 国民楽派　関連する作曲家について　弦楽器の室内楽作品
14. ドヴォルザーク② ピアノを含む室内楽作品
15. まとめと確認

授業時間外の学習
課題になった作品を、各自、各グループで事前に練習を行うこと。

教科書・参考書等
特になし。

成績評価
成績評価については、授業への取り組み・学期末課題の結果を総合的に判断して行う。

S　総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
A　総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者)。
B　総合点が60点以上の者（授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。
C　総合点が50点以上の者（授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。
D　総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名	室内楽研究B／Db	授業形態	演習（技術）	対象	専攻科音楽専攻1・2年	単位数	2
担当教員	蓼沼　恵美子	実務経験	○	期間	後期	他専攻	／

履修条件
ピアノ専修の学生を対象とするが、ピアノを含む室内楽曲を体得したい他の器楽専修の履修も可。

授業の概要
ピアノを含む室内楽作品を取り上げ、アンサンブルにおける奏法や音楽作りを学んでいく。

アンサンブルにおいては、ソロ以上に音に対する意識や柔軟性が求められる場合がある。共演する楽器の特性をふまえた上での音色作りや響きのバランス、呼吸感等、ピアノパートの役割を果たすために必要な具体的な奏法を実践で学ぶ。

異なる楽器の響きの融合を体験したり、楽曲に対するそれぞれの楽器のアプローチの仕方を知ることによって、音楽的視野を広げ、作曲家の意図をふまえた、より幅広い表現を目指していきたい。演奏員の協力も得て、マスタークラスの形式で授業を進める。

授業の到達目標
アンサンブルにおける奏法を修得し、相手の音をよく聴きながら、共に音楽をつくり上げる室内楽の楽しさを実感できることを目標に、曲を仕上げる。

授業計画
1. ガイダンス及び曲目の検討
2. 曲目とメンバーを決定
3. アンサンブル実習①
4. アンサンブル実習②
5. アンサンブル実習③
6. アンサンブル実習④
7. アンサンブル実習⑤
8. 楽曲のまとめ。発表演奏の曲を決定
9. パート練習（レッスン）①
10. パート練習（レッスン）②
11. パート練習（レッスン）③
12. パート練習（レッスン）④
13. パート練習（レッスン）⑤
14. パート練習（レッスン）⑥
15. 発表演奏

※授業の進行は履修者の人数によって変更することがある。

授業時間外の学習
自分のパートをよく練習して授業に臨むこと。準備不足では、アンサンブルを楽しむことはできない。

事前にCDを聴いたり、スコアを見るなど、他のパートにも目を向けておくこと。

教科書・参考書等
授業で演奏するグループが、演奏曲の楽譜をその都度配布する。

成績評価
成績評価については、授業への取り組み・学期末課題の結果を総合的に判断して行う。

S　総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
A　総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者)。
B　総合点が60点以上の者（授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。
C　総合点が50点以上の者（授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。
D　総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、学期末課題未提出者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者。

科目名	室内楽研究B／Dc	授業形態	演習（技術）	対象	専攻科音楽専攻1・2年	単位数	2
担当教員	白尾　隆	実務経験	○	期間	後期	他専攻	／

履修条件
フルート専修の学生を対象とする。

授業の概要
フルートによる二重奏～七重奏（他の楽器を含まない）の重要なレパートリーの習得。

授業の到達目標
仲間と協調しながら自己をよく主張し音楽を表現するという、アンサンブル力の基本的な強化を目指すことができる。

授業計画
1. アンサンブル実習①
2. アンサンブル実習②
3. アンサンブル実習③
4. アンサンブル実習④
5. アンサンブル実習⑤
6. アンサンブル実習⑥
7. アンサンブル実習⑦
8. アンサンブル実習⑧
9. アンサンブル実習⑨
10. アンサンブル実習⑩
11. アンサンブル実習⑪
12. アンサンブル実習⑫
13. アンサンブル実習⑬
14. アンサンブル実習⑭
15. 発表演奏

課題曲の編成により、数グループに分け、状況を見ながら、期間内に、できるだけ多くのレパートリーを勉強する。

クーラウ、クンマー等の古典から、ロレンツォ、デュボワ、ボザ等の近代作品を習得する。

授業時間外の学習
個人レッスン同様、可能な限り仲間と練習し、授業までによく準備し、また復習すること。

教科書・参考書等
楽譜をその都度貸し出すので、各自コピーすること。

成績評価
授業への取り組み方を重視し、学期末発表演奏の結果等も見ながら、総合的に判断する。

S　総合点が90点以上の者
A　総合点が80点以上の者
B　総合点が60点以上の者
C　総合点が50点以上の者
D　総合点が49点以下の者

科目名	室内楽研究B／Dd	授業形態	演習（技術）	対象	専攻科音楽専攻1・2年	単位数	2
担当教員	菊池　奏絵	実務経験	○	期間	後期	他専攻	／

履修条件
ただ楽譜を演奏するという作業や自分の専修の事のみを目的とせず、様々な角度から視野を広げたい者に履修して欲しい。

授業の概要
本授業では、バロック時代の音楽を題材とし、ひとつの曲を仕上げる時に必要となる要素を明らかにして行く。それぞれの時代の様式感とは何か。バロックの演奏習慣を音楽と結びつけて、音楽学的見知から、また現代の実践の現場から見えて来る様々な方面からのアプローチを知り、実際のアンサンブルを試みる。自分の専修以外の楽器や声楽との関わり、表現と演奏方法についても考える。

各回の内容は全てリンクしており、履修生の理解度、興味により授業内容の順序を変えて行く可能性あり。各授業の初めに講義をし、後半はアンサンブル実践をして行く。アンサンブルを組み、授業内でのレッスンを重ね、最後に発表を行う。

授業の到達目標
ひとつの曲を仕上げる時に、どのように演奏するべきか自分で考え、様々な情報の中から選択する能力を身に付けることができる。

授業計画
1. バロック時代の音楽について
2. 楽譜について
3. 通奏低音について①数字の読み方
4. 通奏低音について②和声付け
5. アンサンブル組み
6. フルートの変遷
7. バロック時代周辺の楽器について
8. バロック時代周辺の音楽について
9. 舞曲、組曲について
10. 演奏習慣について
11. 当時の文献を読む
12. 音楽修辞学について
13. 装飾について
14. アンサンブル仕上げ
15. 発表

授業時間外の学習
アンサンブル曲の情報収集を自分なりにやってくる事。
個人練習、グループでの練習を充分にする事。

教科書・参考書等
プリントを配布。授業内で参考書を紹介。

成績評価
成績評価については、受講態度50%、課題に対する成果50%にて評価する。

S　総合点が90点以上の者
A　総合点が80点以上の者
B　総合点が60点以上の者
C　総合点が50点以上の者
D　総合点が49点以下の者

科目名	室内楽研究A／Cb	授業形態	演習（技術）	対象	専攻科音楽専攻1・2年	単位数	2
担当教員	北本　秀樹	実務経験	○	期間	前期	他専攻	／

履修条件

弦楽器専修を中心とするが他の専修の履修も可。室内楽に興味と意欲のある学生。

授業の概要

あなた達が今演奏してみたい室内楽。
将来演奏してみたい室内楽を授業で行っていく。

授業の到達目標

- 作曲家の意図を読み取ること、それを演奏能力の向上につなげることができる。
- アンサンブル能力の向上。

授業計画

1. 導入
2. アンサンブル実習①
3. アンサンブル実習②
4. アンサンブル実習③
5. アンサンブル実習④
6. アンサンブル実習⑤
7. アンサンブル実習⑥
8. アンサンブル実習⑦
9. アンサンブル実習⑧
10. アンサンブル実習⑨
11. アンサンブル実習⑩
12. アンサンブル実習⑪
13. アンサンブル実習⑫
14. アンサンブル実習⑬
15. 発表演奏

2回目以降は室内楽を学生同士で演奏する。
必要な楽器のメンバーがいない時は、演奏要員の方をお願いします。

授業時間外の学習

各自十分な練習を行う事。

教科書・参考書等

なし。

成績評価

成績評価については、授業への取り組み・学期末課題の結果を総合的に判断して行う。

S　総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
A　総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者)。
B　総合点が60点以上の者（授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。
C　総合点が50点以上の者（授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。
D　総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、学期末課題未提出者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名	ギター・アンサンブルC／D	授業形態	演習（技術）	対象	専攻科音楽専攻1・2年	単位数	2
担当教員	佐藤　紀雄	実務経験	○	期間	通年	他専攻	／

履修条件

ギター専修者必修

授業の概要

古典から現代までのギターアンサンブル作品、編集作品に加え学生自身の作品、編曲による作品等を取り上げる。独奏楽器であるギターの修得課程でアンサンブルの経験や技術を磨く機会を得ることは特に重要であり、将来様々な楽器とのアンサンブルに役立ててもらいたい。その経験を活かし各自の音楽活動の幅を広げてもらいたい。

授業の到達目標

年二回の自主的発表会に向けて、課題曲の演奏を完成させる。その練習の課程で様々な時代の様式を同時に学ぶことができる。アンサンブルを行う上で何が必要な技術かを知ることができる。

授業計画

(前期)
1. カルメン組曲①必要な技術を確認し、習得へ向けた計画づくり
2. カルメン組曲②各パート毎の達成状況をみる
3. カルメン組曲③アンサンブルの難所を集中して練習する
4. カルメン組曲④各曲がオペラのどのような場面で使われているかを調べる
5. カルメン組曲⑤①～④を踏まえて表現方法を追究していく
6. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲①いくつかの独特の奏法の演奏法を確認する
7. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲②各パートずつ互いに聴きあい理解しておく
8. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲③アンサンブルの中で各パートの役割を確かめ合う
9. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲④オペラについて調べ、各エピソードが出てくる場面を理解する
10. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲⑤息の長いフレーズ起伏の激しさを表現する
11. バンドゥークイッカン①各パートの難所の練習課題を見つける
12. バンドゥークイッカン②各パート同士の役割を理解する
13. バンドゥークイッカン③ラテンアメリカ独特のリズムについて調べ、リズムの練習をする
14. バンドゥークイッカン④ラテンアメリカのリズムが作品の中でどのように応用されているかを試す
15. バンドゥークイッカン⑤11～14を踏まえて表現を実現する

(後期)
1. ヴィヴァルディー四季より「春」①この曲に必要な技術を準備する
2. ヴィヴァルディー四季より「春」②各パート毎に弾いて役割を理解する
3. ヴィヴァルディー四季より「春」③テンポの激しい変化を皆で理解し練習する
4. ヴィヴァルディー四季より「春」④バロック音楽の特徴を調べ、合わせた表現
5. ヴィヴァルディー四季より「春」⑤作品の中での自然の描写を豊かに再現する
6. ラヴェル「ラ・ヴァルス」①多くあるパートの難所を練習する
7. ラヴェル「ラ・ヴァルス」②複雑に絡み合った所を理解する
8. ラヴェル「ラ・ヴァルス」③全体を通して流れをつかむ
9. ラヴェル「ラ・ヴァルス」④この作品の成立の課程を調べ、このワルツの特性を理解する
10. ラヴェル「ラ・ヴァルス」⑤めまぐるしく変化するテンポを表現できるようにする
11. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」①各パートを練習
12. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」②二組みずつで合わせて他を聞く
13. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」③現代の作曲様式の影響を理解する
14. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」④特殊なアンサンブルを理解する
15. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」⑤様々な演奏形態を試す

授業時間外の学習

あらかじめ課題についての知識を得、また技術的に足りない箇所を準備しておく。

教科書・参考書等

課題曲の楽譜と参考資料

成績評価

成績評価については、授業への取り組み・学期末課題の結果を総合的に判断して行う。

S　総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
A　総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者)。
B　総合点が60点以上の者（授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。
C　総合点が50点以上の者（授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。
D　総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名	劇作研究A（劇作論）	授業形態	講義	対象	専攻科演劇専攻1・2年	単位数	2
担当教員	瀬戸山　美咲	実務経験	○	期間	前期	他専攻	／

履修条件

シノプシスを書き上げる意志のある人。ディスカッションに積極的に参加できる人。劇作研究Bと併せて履修することが望ましい。

授業の概要

戯曲の執筆において多くの時間を占めるのは、実際に台詞を書き始めるまでの時間である。この授業では物語の基本構造を知り、作品を書くために必要な準備をおこなう。ログライン（1行のあらすじ）を書くことで、戯曲の骨格を明確にし、シノプシス（全体のあらすじ）に移行していく。シノプシスを互いの講評し、ブラッシュアップする。

授業の到達目標

シノプシスを完成させることができる。

授業計画

1. 戯曲とは何か　演劇と映像の違いについて
2. 登場人物を考える　ログラインを考える
3. ログライン発表①前半
4. ログライン発表②後半
5. 物語の種類について
6. 構成について　シノプシスを考える
7. シノプシス第一稿発表①ディスカッション1回目
8. シノプシス第一稿発表②ディスカッション2回目
9. シノプシス第一稿発表③ディスカッション3回目
10. 取材・リサーチについて
11. シノプシス第二稿発表①ディスカッション1回目
12. シノプシス第二稿発表②ディスカッション2回目
13. シノプシス第二稿発表③ディスカッション3回目
14. シノプシス第二稿発表④ディスカッション4回目
15. シノプシス提出・まとめ・執筆について

授業時間外の学習

さまざまな演劇、映画を見て、構造を分析する。
各自、リサーチ・取材をしてシノプシスを執筆する。

教科書・参考書等

授業時に指示もしくは配布する。

成績評価

授業への取り組み50%、シノプシスの完成度50%で100点換算。

S　総合点が90点以上
A　総合点が80点以上
B　総合点が60点以上
C　総合点が50点以上
D　総合点が49点以下

科目名	劇作研究B（劇作演習）	授業形態	演習（理論）	対象	専攻科演劇専攻1・2年	単位数	1
担当教員	瀬戸山　美咲	実務経験	○	期間	後期	他専攻	／

履修条件

戯曲を書き上げる意志のある人。ディスカッションに積極的に参加できる人。劇作研究Aと併せて履修することが望ましい。

授業の概要

シノプシスをもとに戯曲を書く。授業内でリーディングをおこない、互いに講評し、ブラッシュアップしていく。

授業の到達目標

1時間半から2時間程度の戯曲を書き上げることができる。

授業計画

1. ログラインとシノプシスについて
2. 第一稿発表①ディスカッション1回目
3. 第一稿発表②ディスカッション2回目
4. 第一稿発表③ディスカッション3回目
5. 第一稿発表④ディスカッション4回目
6. 第二稿発表①ディスカッション1回目
7. 第二稿発表②ディスカッション2回目
8. 第二稿発表③ディスカッション3回目
9. 第二稿発表④ディスカッション4回目
10. 第三稿発表①ディスカッション1回目
11. 第三稿発表②ディスカッション2回目
12. 第三稿発表③ディスカッション3回目
13. 第三稿発表④ディスカッション4回目
14. 第三稿発表⑤ディスカッション5回目
15. 戯曲提出・まとめ

授業時間外の学習

さまざまな演劇、映画を見て、構造を分析する。
各自、リサーチ・取材をして戯曲を執筆する。

教科書・参考書等

授業時に指示もしくは配布する。

成績評価

授業への取り組み50%、戯曲の完成度50%で100点換算。

S　総合点が90点以上
A　総合点が80点以上
B　総合点が60点以上
C　総合点が50点以上
D　総合点が49点以下

科目名	演技研究D（フィジカルシアター）（1）	授業形態	演習（演技）	対象	専攻科演劇専攻1年	単位数	1
担当教員	大谷　賢治郎	実務経験	○	期間	後期	他専攻	／

履修条件

授業時間外での自習・自主稽古に積極的に取り組むこと。アーティストとしての自立、アンサンブルとしての共同作業を両立させること。稽古着を着用すること。

授業の概要

俳優としての身体性を習得することを目標とする。
身体表現の可能性を模索し、身体表現による語彙を増やして行く。
台詞だけに頼らない、観客の想像力に働きかける伝達方法を獲得する。
「演技演習A」で行った、俳優自身が作品創造を行うディバイジングを更に掘り下げて行く。
身体表現による身体行動、テキストによる言語行動の両立を図る。

授業の到達目標

- ソロパフォーマンスの確立と発表ができる。
- グループワークによるパフォーマンスの確立と発表ができる。
- ディバイジングによる作品づくりと発表ができる。
- 創造過程に於ける自分自身について、そして他者についての観察とフィードバックができる。
- 創造過程を記録し報告ができる。

授業計画

1. 授業の導入
2. 身体表現による演劇的自己紹介
3. テンポ：スローモーションなど
4. 身体記憶
5. 模倣と観察
6. 日常的ジェスチャー
7. 表現的ジェスチャー
8. 音楽的表現
9. キャラクターの創造①基礎
10. キャラクターの創造②応用
11. ディバイジング①基礎
12. ディバイジング②応用
13. 作品創造①1回目の発表
14. 作品創造②2回目の発表
15. 総評

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

授業時間外の学習

課題発表のための自習ならびに自主稽古。

教科書・参考書等

教科書：必要に応じて授業時に配布
参考書：必要に応じて授業時に配布

成績評価

①授業への取組み80%②発表の内容20%の総合的評価

S　授業への取組み、創造過程への関わり方、シーンワークの発表が大変高く評価できる。
A　授業への取組み、創造過程への関わり方、シーンワークの発表が高く評価できる。
B　授業への取組み、創造過程への関わり方、シーンワークの発表が評価できる。
C　各課題の発表まで達している。
D　各課題の発表が評価できない。

科目名	演技研究D（フィジカルシアター）（2）	授業形態	演習（演技）	対象	専攻科演劇専攻2年	単位数	1
担当教員	大谷　賢治郎	実務経験	○	期間	後期	他専攻	／

履修条件

授業時間外での自習・自主稽古に積極的に取り組むこと。アーティストとしての自立、アンサンブルとしての共同作業を両立させること。稽古着を着用すること。演技研究D（フィジカルシアター）（1）を履修していること。

授業の概要

俳優としての身体性を習得することを目標とする。
身体表現の可能性を模索し、身体表現による語彙を増やして行く。
台詞だけに頼らない、観客の想像力に働きかける伝達方法を獲得する。
「演技研究D（1）」で行った、俳優自身が作品創造を行うディバイジングを更に掘り下げて行く。
身体表現による身体行動、テキストによる言語行動の両立を図る。
最高学年として、専攻科1年生への稽古のアドバイスや、技術面でのアドバイスを率先して提供することにより、「演じる」だけでなく「創作」する力も養っていく。

授業の到達目標

- ソロパフォーマンスの確立と発表ができる。
- グループワークによるパフォーマンスの確立と発表ができる。
- ディバイジングによる作品づくりと発表ができる。
- 創造過程に於ける自分自身について、そして他者についての観察とフィードバックができる。
- 創造過程を記録し報告ができる。
- フィジカルシアター上演において、必要な稽古への取り組みや、表現上のアドバイスを他人に言語として伝えられる力を獲得できる。

授業計画

1. 授業の導入
2. 身体表現による演劇的自己紹介
3. テンポ：スローモーションなど
4. 仮面①
5. 仮面②
6. 仮面③日常的ジェスチャー
7. 身体表現：感情
8. 身体表現：年齢
9. 身体表現：キャラクター形成①基礎
10. 身体表現：キャラクター形成②応用
11. ディバイジング①基礎
12. ディバイジング②応用
13. 作品創造①1回目の発表
14. 作品創造②2回目の発表
15. 総評

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

授業時間外の学習

課題発表のための自習ならびに自主稽古。

教科書・参考書等

教科書：必要に応じて授業時に配布
参考書：必要に応じて授業時に配布

成績評価

①授業への取組み80%②発表の内容20%の総合的評価

S　授業への取組み、創造過程への関わり方、シーンワークの発表が大変高く評価できる。
A　授業への取組み、創造過程への関わり方、シーンワークの発表が高く評価できる。
B　授業への取組み、創造過程への関わり方、シーンワークの発表が評価できる。
C　各課題の発表まで達している。
D　各課題の発表が評価できない。

科目名	演劇特別研究①②	授業形態	演習（演技）	対象	専攻科演劇専攻1・2年	単位数	2
担当教員	田中　壮太郎	実務経験	○	期間	通年	他専攻	／

履修条件

プロの俳優と同様のモチベーションを持って取り組む事。

授業の概要

多くの演技論の土台となっているスタニスラフスキー・システムをベースに演技を習得してゆく。演技とはリアクションであり、行動、行為である。

授業では登場人物の基本行動を洗い出し、それを更に小さな行動へと分解してゆく。その行動の一つ一つが順繰りに小さな「適応」を生み出す。適応というのは相手とのコミュニケーションであり、毎日、新しく生まれてくるものだから決めることはできない。「自分」を通してそれらを行う。シーンワークを通してドラマを動かす演技を習得してゆく。

授業の到達目標

シーンワークを通して、実際の舞台や映像で共通して求められる演技力の獲得、またはそれらと自分の演技を距離の自覚することができる。

授業計画

1. 授業の導入
2. 前期シーンワークの作品発表　ウォーミングアップ
3. 読み、話し合い①
4. 読み、話し合い②
5. 配役発表　読み合わせ
6. 読み合わせ①
7. 読み合わせ②
8. 立ち稽古1①コミュニケーション
9. 立ち稽古1②コミュニケーション
10. 立ち稽古1③台詞の行動化
11. 立ち稽古1④台詞の行動化
12. 立ち稽古1⑤自分の言語にする
13. 立ち稽古1⑥自分の言語にする
14. 立ち稽古1⑦形にする
15. 前半発表
16. 後期シーンワークの作品発表　配役発表　読み合わせ
17. 読み合わせ①
18. 読み合わせ②
19. 読み合わせ③
20. 読み合わせ④
21. 立ち稽古2①コミュニケーション
22. 立ち稽古2②行動としての台詞
23. 立ち稽古2③使役動詞に置き換える
24. 立ち稽古2④他者を動する
25. 立ち稽古2⑤負荷の大きい方の選択
26. 立ち稽古2⑥形にする
27. 立ち稽古2⑦落とし込み
28. 立ち稽古2⑧通し稽古
29. 立ち稽古2⑨通し稽古
30. 後期発表

※授業内容に関しては、その進行具合によって多少の前後がある事を承知しておくこと。

授業時間外の学習

作品に対するあらゆる方面からの理解のためのリサーチ。
「台詞を自分に落とす」という段階までの台詞の記憶。

教科書・参考書等

教科書・教材は授業時に発表。
参考書・必要に応じて随時指定。

成績評価

①授業への取り組み　②課題の成果　③各々の障壁や課題に対する姿勢　④授業期間中の成長、変化　⑤センス

S　①～⑤が全て高いレベルで評価できる者（元々演技力が高い場合は④は考慮に入れない）。
A　①～⑤のうち3つが高く評価できる者、もしくは総合的に見てやや高く評価できる者。
B　①～⑤のうち2つが高く評価できる者、もしくは総合的に見て標準以上だと評価できる者。
C　①～⑤のうち1つが高く評価できる者、もしくは総合的に見て標準よりやや劣ると評価できる者。
D　総合的に見てあまり評価できなかった者。

科目名	ワークショップA／B	授業形態	実習（WS）	対象	専攻科演劇専攻1・2年	単位数	1
担当教員	A：永井　愛／B：未定	実務経験	◎	期間	前期集中	他専攻	／

履修条件

ワークショップ全日程に参加すること。欠席、遅刻、早退は一切認めない。

授業の概要

各ジャンルの第一線で活躍されている演劇人・アーティストにご指導いただき、前期・後期に各一回ずつワークショップを行う。

授業計画の準備、履修登録後の登録・取消は一切認めないので注意すること。また事前に課題が提示されることもあるので、その場合は十分に準備してワークショップに挑むこと。

授業の到達目標

- 演技・表現のメソッドを集中的に訓練し、演劇・舞台表現に関する理解を体験的に深めることができる。
- 修了年次であることを意識し、今後の演劇活動における社会貢献に直結する技術や思考を獲得することができる（専攻科2年）。

授業計画

ワークショップ担当者は各学期の開講時に、授業計画を発表するが、おおむね以下の流れに沿って進行するであろう。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. キャスト発表
5. 立ち稽古①
6. 立ち稽古②
7. 立ち稽古③
8. 立ち稽古④
9. 立ち稽古⑤
10. 立ち稽古⑥
11. 立ち稽古⑦
12. 立ち稽古⑧
13. 立ち稽古⑨
14. 課題発表
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する

授業時間外の学習

与えられた課題の予習及び、復習をすること。

教科書・参考書等

稽古開始までに台本配布。必要に応じて指示する。

成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。
①授業の取組み　②課題の成果　③表現者としての真摯な姿勢　④自らを研鑽する意欲　⑤心身の健康管理

S　総合点が90点以上の者
A　総合点が80点以上の者
B　総合点が60点以上の者
C　総合点が50点以上の者
D　総合点が49点以下の者

科目名	ワークショップC／D	授業形態	実習(WS)	対象	専攻科演劇専攻1・2年	単位数	1
担当教員	C：和田　喜夫／D：眞鍋　卓嗣	実務経験	○	期間	後期集中	他専攻	／

履修条件

ワークショップ全日程に参加すること。欠席、遅刻、早退は一切認めない。

授業の概要

各ジャンルの第一線で活躍されている演劇人・アーティストにご指導いただき、前期・後期に各一回ずつワークショップを行う。

授業計画の準備、履修登録後の登録・取消は一切認めないので注意すること。また事前に課題が提示されることもあるので、その場合は十分に準備してワークショップに挑むこと。

授業の到達目標

- 演技・表現のメソッドを集中的に訓練し、演劇・舞台表現に関する理解を体験的に深めることができる。
- 修了年次であることを意識し、今後の演劇活動における社会貢献に直結する技術や思考を獲得することができる（専攻科2年）。

授業計画

ワークショップ担当者は各学期の開講時に、授業計画を発表するが、おおむね以下の流れに沿って進行するであろう。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. キャスト発表
5. 立ち稽古①
6. 立ち稽古②
7. 立ち稽古③
8. 立ち稽古④
9. 立ち稽古⑤
10. 立ち稽古⑥
11. 立ち稽古⑦
12. 立ち稽古⑧
13. 立ち稽古⑨
14. 課題発表
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する

授業時間外の学習

与えられた課題の予習及び、復習をすること。

教科書・参考書等

稽古開始までに台本配布。必要に応じて指示する。

成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

①授業の取組み　②課題の成果　③表現者としての真摯な姿勢　④自らを研鑽する意欲　⑤心身の健康管理

S　総合点が90点以上の者
A　総合点が80点以上の者
B　総合点が60点以上の者
C　総合点が50点以上の者
D　総合点が49点以下の者

科目名	舞踊B（コンテンポラリー）	授業形態	実技(GL)	対象	専攻科演劇専攻1年	単位数	1
担当教員	勝倉　寧子	実務経験	○	期間	前期	他専攻	／

履修条件

経験の有無に関わらずコンテンポラリー・ダンスに興味があり、身体表現の習得に意欲的であること。

授業の概要

同時代のダンスという意味のコンテンポラリー・ダンスは、バレエにはない動きで表現の幅を大きく広げたモダンダンスよりもさらに新しい、最先端を行くダンスである。スキルフルで洗練され、アクロバティックで重力を利用した美しい脱力が特徴的。舞台芸術の中でも心とからだの密接な関係を深く実感できる実に魅力的な身体表現である

コンテンポラリー・ダンスの中でも、バレエ、ジャズ、ストリート、舞踏等あらゆるダンスを理解した上に成り立つ技法は、音楽、演劇における身体表現に結びつく可能性を非常に多く含んでおり、舞台表現の質の向上にも大いに有効である。

この授業では、まずコンテンポラリー・ダンスのトレーニングを積み重ねることでからだを意思どおりにコントロールできる能力を養う。この後段階を踏みながら更なる技術のスキルアップを図りつつ身体表現に最も重要かつ必要な要素を取り上げてそのテーマごとに実践を積み重ね、応用へと発展させていく。

授業の到達目標

- コンテンポラリー・ダンスの理解を深め、その技術を習得できる。
- プロの俳優として通用するからだをつくることができる。
- 演じる上で、身体を使った感情表現がスムーズに行うことができる。
- プロの演出家、振付家の要求に対応し得る基礎技術、応用力を身に付けることができる。
- 豊かな発想を生み出す創造力を養い、説得力のある寝台表現を可能にすることができる。
- 自作自演を可能にする創作力、演出力を身に付けることができる。

授業計画

基礎トレーニング

1. ストレッチ&リリース、呼吸法と筋力強化（インナー、アウター、体幹）
2. フロアーワーク…スウィング&リリーステクニック
3. アライメント…姿勢の矯正、正確なポジショニング
4. 重力のコントロール…フォール&リバウンド、リカバリー、サスペンション
5. 動きのリーダー…ポイントの設定と体の使い方
6. 重心移動①ステップバリエーション、スウィング（スタンディング）テクニック
7. 重力移動②フロアーテクニック+ジャンプ&ターン
8. 様々なテクニックの組み合わせによる3次元的空間使い

応用、基礎トレーニングに加えて、下記の内容を単独、または他のテーマとクロスフェードしながら取り上げ習得していく

9. フレーズを踊る①振付された動きによる身体表現の実践
10. フレーズを踊る②舞台空間の使い方、緩急の配分、他者との関わり
11. プロップ（小道具）を踊りのパートナーとして用いるダンスの実践
12. 感情を伴う表現…音楽、シチュエーション設定による実践、内面（こころ）と動き（からだ）の演出上有効な距離選択法
13. インプロビゼーション…即興力、新しい動きの開発、手がかりとなる手法
14. 創作…振付力の向上、個性、独創性の発見、課題に対する創作の実践
15. 総括、学習到達度の確認

授業時間外の学習

毎回授業で学んだテクニックは、次回のステップアップに繋がるよう最大限の復習に努めること。

日頃から創作の材料となり得る音楽やテーマの情報収集に積極的であること。

教科書・参考書等

稽古着を着用。授業は基本的にシューズを履かずに行う。

成績評価

受講態度50%、課題に対する評価50%を総合的に評価

S　総合点が90点以上の者（基本的な諸事項を十分に理解し、それらを的確に用い優れた身体表現を実現することが出来る）
A　総合点が80点以上の者（基本的な諸事項を十分に理解し、それらを明確に表現し応用できる身体表現を持っている）
B　総合点が60点以上の者（基本的な諸事項をほぼ理解し、それらを明確に表現し応用できる身体表現を持っている）
C　総合点が50点以上の者（基本的な諸事項をある程度理解し、身体表現能力に向上が見られる）
D　総合点が49点以下の者（基本的な諸事項の理解に欠け、身体表現能力に向上が見られない）